

多文化共生 の 第二ステージ

(一社)多文化リソース
センターやまなし

2018. 11. 10YKato

1. あなたはどの国に住みたいですか？

アメリカ

ヨーロッパ

中国

韓国

タイ

ブラジル

ペルー

ベトナム

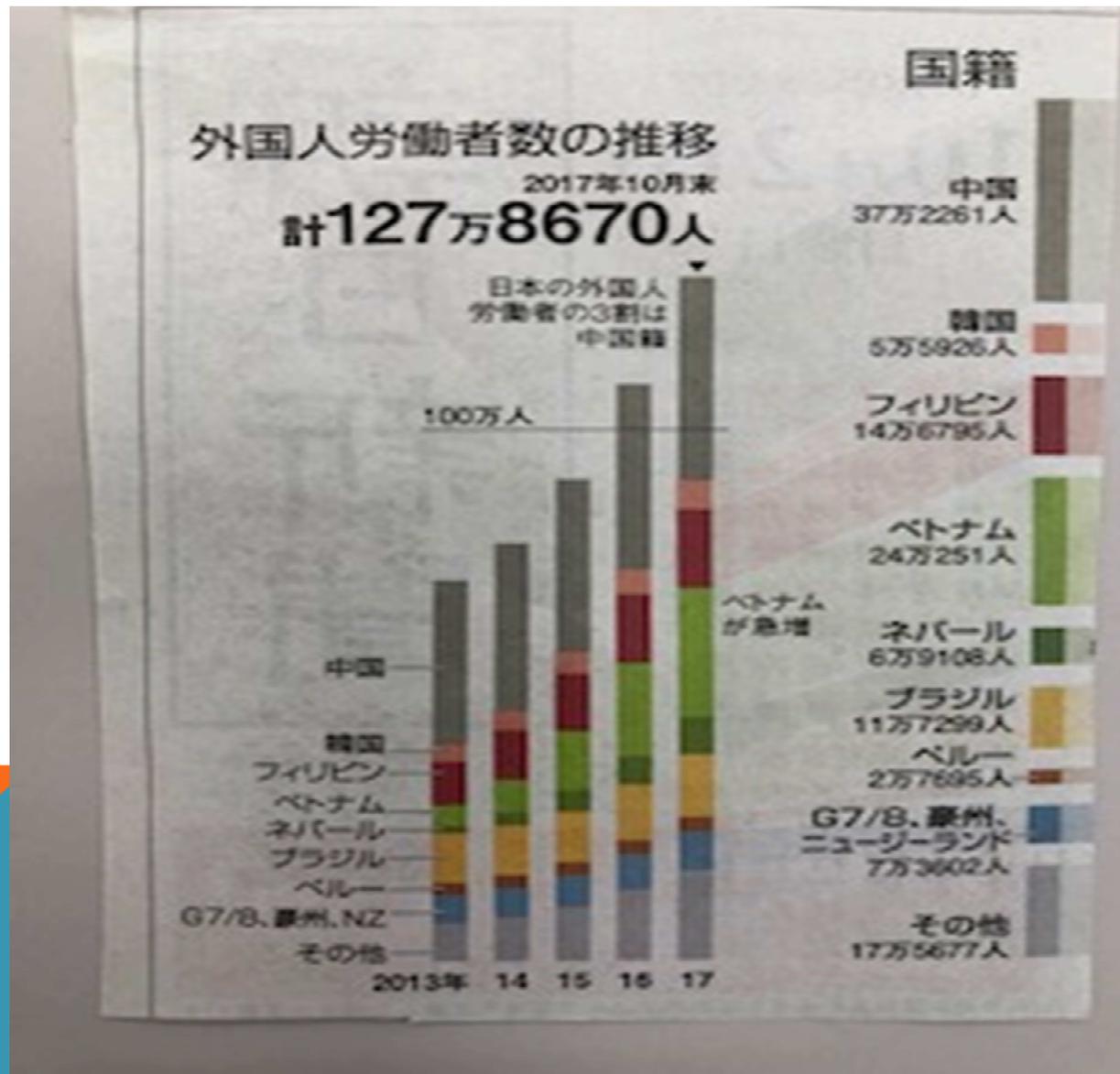
ネパール

ブータン

インド

イラン

*外国人労働者の国籍



2. 世界の中の日本 !

↓ ↓
自文化中心主義(エスノセントリズム)

ethnocentrism)に陥る危険性
外国人が増えている中、
手をこまねいているだけ ?

何かできることはないのか ?

異文化理解がキーワード

3. 先進国 ⇔ 中後進国

後進国の文化を理解する姿勢は
グローバル化が進む日本で生きてゆく
上で 自分の可能性を広げる大事な
資質⇔多様性ダイバーシティ
diversity を身につける!!!

特にベトナム・ネパール・インドネシア・
ブータン

ブラジル・タイ等の異文化との接触が大
事！

4. 個の文化⇔共生

多文化共生(集団)⇔日本人

だけでは理解しきれない
展開!

世界というマーケットを視野に

どこで働くかを個人が

5. どっちが共生社会？



整然 ⇔ **雜然** **人口減** ⇔ **人口增** **規制** **有** ⇔ **無**



6. 多文化共生を論じるのではなく、**多文化共生を体現できる場所を創り出す**のが第2ステージにおける重要な転換点になり得るが、果たして日本人の関心・興味は何処にあるのか！
7. 若い世代に異文化理解を深める教育機会を提供し、国境や文化を超えて地球の生きる道を模索できる人々を増やす必要に迫られている！

参考文献：異文化理解と異文化経験（川口恭子）

認可小規模保育園みんなのいばしょ 東花輪



8. **スタディツアー ⇔ 異文化 EXPOSURE**

異文化に直接接する経験は、日本に滞在する留学生やその他の外国人と接することでも得られるが、こちらから異国に出向いて得られる異文化経験は、よりインパクトが大きいと考えられる。特に、自分や自文化のアイデンティティの育つ若い世代が直接的な経験としての異文化経験を持つことは、その後の彼らの生き方や、グローバルなものの見方を育てることに大きな影響を持つ。

多文化共生社会の実現に向けた取り組み（スポーツイベント）の様子



異文化理解を深めることの大切さ、、、

- 自分と異なる文化や容姿をもった人に対する思いやりと寛容さ、人権尊重意識、世界で通用するマナーを学ぶことは外国人観光客のおもてなしに通じる
- 異質なものに対する柔軟性、多様な価値観の醸成
- 多様なものの考え方や生活習慣を持つ人たちと共同作業をする際の協調性を通して多様な資質を得る
- 異文化環境の中でのストレスやマネージメントの限界を打破するには、**異文化交流を通して新たな価値を見出すという気づき**が大切であり、そこから異文化理解の大きな意義が見えてくる

- 外国籍住民は、可動人口であり、異文化理解を深めることは今後の町の発展に大きく寄与する可能性を秘めている**ということもできる。

ご意見